

構造改革徹底推進会合（第2会合：イノベーション第1回会合）
総合科学技術・イノベーション会議 有識者議員懇談会（政策討議）進め方メモ

平成 29 年 11 月 29 日

橋本 和仁

1. 概要

- イノベーション推進の鍵となる「研究力向上、大学改革、産学連携」について、2回の合同会合を行い、来年年央の各戦略の策定等を見据えつつ、今後とるべき行動についての議論を深める。11月29日の議論においては「大学改革」「産学連携」を扱う。

2. 問題意識

- 科学技術イノベーションのエンジンである大学に活力を与え、国際的な視座から研究力の向上や新領域への挑戦を促すため、大学改革は不可避。
- 大学改革については、これまで様々な施策が実施され、国立大学において3類型化や財務システム改革、自己収入拡大、大学発ベンチャーでの成功事例などの成果も出てきているが、大学がイノベーションを牽引していると言えるほどの成果が生まれているとは言いがたいのが現実。
- 近年、国際的な大学ランキングで日本の大学の順位が低下傾向にある。ランキングが全てではなく、その順位を上げることが目的化してはならないが、この指標には、研究力のほか、産学連携への取組状況なども含まれており、日本の大学のイノベーション力が劣化しつつあるのではないかと、との危惧を禁じ得ない。
- 今回は、国際的な視座に立って、日本のイノベーション力を抜本的に強化する観点から、大学改革と産学連携について、これまでの施策の進捗状況を確認し、全体を俯瞰してイノベーション推進に資しているかを検証した上で、新たに何をすべきかを議論する。

3. 「大学改革」の主な論点

文部科学省作成資料「国立大学法人化以降の大学改革の流れ」と「大学改革の論点に対する文部科学省の見解」を起点として議論を行う。

- 優秀な若手研究者が活躍できる人事制度（世代交代をいかに促進するか？教員の評価と処遇）
- 研究時間劣化の原因究明と対策（教員の責任と権限分担の再整理、過度な国内外への学会・研究会等への参加はないか？）
- 学際的・分野融合領域への挑戦を促す制度の強化（社会の変化を先取りする新たな学問領域の開拓力を強化するためには教授や学科・専攻単位の既得権となっている閉鎖的な教授選考方式や固定化された大学院定員の割り当てなどをグローバルスタンダードに変えていくことが必要ではないか？）
- 研究力を向上させる研究推進体制の強化（大学院生の待遇改善、欧米と比べ脆弱な

研究推進の専門スタッフ職を量的・質的に充実させ、そのキャリア形成を明確化するには?)

- 学問的な挑戦が行われやすい基盤的研究経費の在り方 (優秀な若手研究者が挑戦的な研究に取り組みやすい資金制度はどのようなものか?)
- 国境を越えた相互交流の活発化による国際性の向上 (海外武者修行や海外の研究者との切磋琢磨の機会を増やし、国際的なネットワークを強化するには?)
- 拠点形成事業で整備した国際研究拠点のサステナビリティ向上 (WPIなどで整備した国際研究拠点が自立的に発展するには?大学の特色として全学的な取組として展開させることが必要ではないか?)

4. 「産学連携」の主な論点

「産学官連携による共同研究強化のためのガイドライン」(H28.11)の活用状況やガイドラインで示された課題等に対し、産業界にヒアリングを行った結果を議論の起点として議論を行う。

- 共同研究の拡大・深化(「組織」対「組織」の産学連携をさらに拡大するためには?)
- 民間資金投資額の増大(2025年までに企業から大学、国立研究開発法人等への投資3倍増を官民共に宣言しているが、その実現のために取り組むべき施策は?)
- ライセンス収入の増大(特許活用によるライセンス収入を増大させるためには?)
- クロスアポイントメント制度の活用(クロスアポイントメント制度を活用した人材交流を加速させるためには?)
- 大学等発ベンチャーの支援・活用(産学連携の大型化に向けた新たな取組)
- 産学連携を誘導するファンディングの在り方(産学の共同研究を後押しするようなファンディング制度)

以上